

福岡市長

高島 宗一郎 様

2021年世界水泳選手権の福岡招致に  
対する要望

平成27年12月4日

2021年世界水泳選手権福岡招致促進委員会  
会長 中村 仁彦

世界水泳選手権は、2年に一度開催され、約180の国と地域から約2,200人の選手が参加し、全世界で約45億人が視聴すると言われる、世界でも有数のスポーツイベントである。

福岡市においても、2001年に開催され、イアン・ソープ氏の活躍等もあり、当時の過去最高となる15万人を超える観客を集め、大成功を収めている。

また、世界で初めて仮設の50mプールによって開催され、これ以降、この方式が世界水泳選手権のスタンダードとなり、開催都市の多様化、収益性の向上等に大きく貢献するなど、運営手法の面でも、高い評価を得ている。

その2001年からちょうど20年目にあたる2021年に、再び世界水泳選手権を開催することは、20年で大きく発展した福岡の姿を内外に強くアピールし、スポーツMICE都市として大きく飛躍するステップとなる。

また、世界の超一流選手との交流や、競技の観戦等による市民スポーツの振興を通じ、青少年の健全育成や市民の健康増進、国際交流の推進などの面で、大きな効果があるものとする。

さらに、2013年のバルセロナ大会では、約270億円の経済効果があり、同時開催される国際コンベンション・世界マスターズ水泳選手権を併せると、福岡の経済・産業の振興に大いに寄与することが期待できる。

そこで、来る2021年に、本大会を福岡に招致すべく、全力を挙げて取り組んでいただけるよう要望する。